

令和6年度 第3回図書館協議会

- 1 日時 令和7年2月14日（木）14：00～
- 2 場所 中央図書館2階研修室
- 3 出席者（委員） 今村委員、福沢委員、玉置委員、矢澤委員、
和田委員、下川委員、千種委員
（事務局） 瀧本中央図書館長、矢澤中央図書館長補佐兼上郷図書館長、
関口中央図書館長補佐兼情報サービス係長、
宮下地域読書推進係長兼鼎図書館長、木下管理係長、
- 4 中央図書館長挨拶
- 5 玉置会長挨拶
- 6 会議事項
 - （1）第5次飯田市立図書館サービス計画（案）について
 - （2）令和6年度事業報告および令和7年度事業計画
 - （3）その他
- 7 連絡・報告事項

6 会議内容 （司会） 玉置会長

（1）第5次飯田市立図書館サービス計画（案）について

○会 長 会議事項1、第5次飯田市立図書館サービス計画（案）について、資料に基づき事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料「第5次飯田市立図書館サービス計画（案）」、「第5次飯田市立図書館サービス計画概要版（案）」に基づき、素案からの変更点を説明。

変更点は第2回図書館協議会、社会教育委員会議、飯田市議会社会文教委員会、教育委員会定例会、パブリックコメント等でいただいた意見を反映させたもの。

計画策定の今後のスケジュール

2月18日 教育委員会定例会 議案附議、計画決定

2月27日 市議会全員協議会 計画報告

3月6日 社会教育委員会議 計画報告

第5次飯田市立図書館サービス計画（案）

第1章 飯田市立図書館サービス計画の策定について

第2章 飯田市立図書館サービス計画の基本方針

第3章 これまでの取組の成果と課題

第4章 第5次飯田市立図書館サービス計画の重点取組

- ・変更なし

第5章 第5次飯田市立図書館サービス計画の具体的な取組

I 図書・資料・情報提供を充実させます

□現状の評価・今後の方向性

- 『『本を読む楽しみ』『知らないことを知る楽しみ』を伝え続けていく』に「本を読むことの意義」を追加し、『『本を読む楽しみ』『知らないことを知る楽しみ』や本を読むことの意義を伝え続けていく』という文章に変更。

- ・教育委員会定例会で教育委員の方から、「図書館で調べもの支援（レファレンス）の強化と周知を重点取組とするとしたが、情報を得たいと思えば、今は自分で情報を得ることができる。情報提供を重点とするよりも、なぜ本を読むのかといった本を読むことの本質を打ち出していくとよいのではないか」という意見を反映させたもの。取組内容にも「本の魅力を伝える機会」づくりを追加した。

□重点とする取組内容

①資料の収集と提供

- 「図書館ウェブサイトで本や資料の情報を発信します。」の項目を追加。
 - ・第2回図書館協議会で遠山委員から、「仕事などで忙しく図書館に直接来館することが難しい方も増えているが、来館しなくても図書館のウェブサイトから情報を得ている人もいる。それも図書館の役割を果たしていると言えるため、進捗状況確認指標にウェブサイトを利用して本の情報を得た数を入れたらどうか。」という意見を反映させたもの。進捗状況確認指標にも「飯田市立図書館ウェブサイトの閲覧数（年間総アクセス数）」を追加。

⑤資料の保存

- 「資料の収集場所の確保に向けて、他の社会教育委機関と連携しながら検討を進めます。」の項目を追加。
 - ・従来からの課題となっている保存スペースの確保については、美術博物館や歴史研究所の社会教育機関と連携しながら検討を行っている。

□進捗状況確認指標（令和10年度の目標値）

- ・【追加】飯田市立図書館ウェブサイトの閲覧数（年間総アクセス数） 250,000 件

Ⅱ 学び合いにより人とひとがつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

- ・変更なし

Ⅲ こどもの読書活動を推進します

□進捗状況確認指標（令和 10 年度の目標値）

○12～1 月に実施した「飯田市児童・生徒読書調査」の結果に基づき、現状値と目標値を設定した。

- | | |
|--|--|
| ・おもしろいと思う本に出会えた児童・生徒の割合
（飯田市児童・生徒読書調査） | 小 6 現状値以上（R 6 : 75.6%）
中 3 現状値以上（R 6 : 71.1%） |
| ・日常的に読書を行っている児童・生徒の割合
（授業以外で 1 週間に 30 分以上読書をしている
飯田市児童・生徒読書調査） | 小 6 現状値以上（R 6 : 41.7%）
中 3 現状値以上（R 6 : 37.7%） |

Ⅳ 身近に使える分館の充実を図ります

- ・変更なし

Ⅴ 安全で安心して使える施設

- ・変更なし

飯田市児童・生徒読書調査結果報告書【令和 6 年度】

- ・飯田市の児童・生徒の読書状況を把握し、学校図書館と市立図書館の今後の読書活動推進の取組に活かすことを目的とし、飯田市内全小・中学校の小学 3 年生から中学 3 年生までを対象に、令和 6 年 12 月 9 日～令和 7 年 1 月 17 日に調査を実施したもの。回答者数は小学生が 2,298 人、中学生が 1,789 人、合計 4,087 人で 69.3%の回答率であった。

自発的な読書について【質問 2～4】

【質問 2】読書（本を読むこと）は好きですか

- ①好き ②どちらかというと好き ③あまり好きではない ④きらい

【質問 3】今の学年になってから「おもしろい」「感動した」「夢中になった」などと思った本がありましたか

【質問 4】質問 3 で「あった」と答えた人にききます。本の名前をおぼえていたら書いてください

- ・読書が「好き」「どちらかというと好き」を合わせると小学校では 79.2%、中学校では 76.2%。
- ・「好き」の割合は、小学校では学年が上がるごとに下がっていく。一方、中学校では学年による差はあまりない。小学校高学年の時期に読書の楽しさを体験し読むことが好きになることが必要ではないか。

- ・「おもしろい、感動した」等の本に出会った割合は小学校で 80.9%、中学校で 73.4%あり、多くの本の書名が回答された。

読書習慣について【質問 5～7】

【質問 5】学校の授業や「読書の時間」ではない時間で、1 週間にどのくらいの時間、本を読んでいますか（教科書、雑誌、まんがは入れない）。※家での読書や、休み時間、昼休みなどで本を読んでいる時間を教えてください。

- ①2 時間以上 ②1～2 時間 ③30 分～1 時間 ④10 分～30 分 ⑤10 分以下
⑥全く読まない

【質問 6】この 1 か月間で、本を何冊ぐらい読みましたか（教科書、雑誌、まんがは入れない）。数字だけで教えてください。1 冊も読まなかった人は、0 と書いてください。学校の授業や「読書の時間」に読んだ本も数えてください。

【質問 7】質問 5 で「まったく読まない」と答えた人と、質問 6 で「0 冊」と答えた人にききます。その理由は次のどれですか（あてはまるものはぜんぶ教えてください）。*複数回答

- ①字を読むのが嫌い、苦手 ②読みたい本がない ③どんな本を読めばいいかわからない
④忙しい ⑤他にしたいことがある ⑥読む必要がない ⑦めんどろ
⑧マンガや雑誌の方がおもしろい ⑨テレビやインターネットの方がおもしろい

- ・日常的に読書をしていると思われる児童・生徒の割合（週 30 分以上）は小学生が 45.0%、中学生が 42.3%。

また、前項と同じく小学校では学年が上がるごとに割合が下がる傾向がみられる。

- ・【問 5】の 1 週間のうち本を読まない児童・生徒の割合と【問 6】の 1 か月に 1 冊も本を読まなかった児童・生徒の割合を比較すると大きな差があることから、自発的には読まなくても、学校の授業や「読書の時間」などにより、読書に親しんでいる児童・生徒があることがわかる。
- ・本を読まない理由については、小学 3 年生は「嫌い・苦手」が多いのに対して、5、6 年生以上になると「ほかにやりたいことがある」、次いで「テレビ・インターネットの方がおもしろい」が増加している。また、「読みたい本がない」割合も高く、読書意欲を高めるための方策が求められる。「嫌い・苦手」という児童生徒には効果的な方策の検討が必要である。

図書館の利用について【質問 8～11】

【質問 8】今の学年になってから、授業や児童会の委員会ではない時間に、学校や飯田市などの図書館に行きましたか。

【質問 9】質問 8 で「行った」と答えた人にききます。行った図書館を全部選んでください。

*複数回答

- ①学校の図書館 ②飯田市(中央・鼎・上郷・駅前)の図書館 ③図書分館
④飯田市以外の図書館

【質問 10】質問 9 の図書館でしたことを全部選んでください。（あてはまるものは全部教えてください。）※授業や、児童会の委員会でしたことは答えしないでください。 *複数回答

- ①本を借りた ②本を読んだ ③調べ物をした ④新聞や雑誌などを読んだ
⑤宿題や勉強をした ⑥図書館の張り紙や展示などを見た
⑦図書館の人や先生に本を教えてもらったり、本を探してもらったりした
⑧友だちに本を教えたり、教えてもらったりした ⑨友だちとおしゃべりをした
⑩図書館の人や先生とおしゃべりをした ⑪その他

【質問 11】 図書館で本を選ぶとき、どうやって本を決めますか。よく選ぶ 3 つを教えてください。

- ①本棚で本を見て選ぶ ②図書館や学校の図書館にあるポスターやポップなどを見て選ぶ
③友だちに聞いた本、友だちが読んでいた本 ④担任の先生が教えてくれた本
⑤図書館の先生が教えてくれた本 ⑥家の人が教えてくれた本 ⑦教科書に載っている本
⑧雑誌や新聞で見た本 ⑨テレビ、インターネットで見た本 ⑩よむリスの本
⑪「ぽけっと図書館」で見た本 ⑫その他

- ・学校図書館、市立図書館、分館を利用している児童・生徒はおよそ 7 割。
- ・小学生の 53.3%が学校図書館を、43.2%が中央・鼎・上郷・駅前図書館を、20.4%が分館を利用。
- ・中学生の 56.3%が学校図書館を、27.4%が中央・鼎・上郷・駅前図書館を、0.9%が分館を利用。
- ・読む本の選び方はどの学年でも同じ傾向で、「棚で見てえらぶ」が 38.9%、「友だちのおすすめの本」が 24.0%で、この 2 つが高い割合となっている。

よむリスについて【質問 12～15】＊小学生のみの設問

【質問 12】「よむリス」を知っていますか。

【質問 13】質問 12 で「知っている」と答えた人にききます。どうやって「よむリス」を知りましたか。

【質問 14】「よむリス」を知っている人にききます。「よむリス」に読んでみたい本はありましたか。

【質問 15】「よむリス」を知っている人にききます。「よむリス」の本を読んで「おもしろい」「感動した」「夢中になった」などと思った本がありましたか。

- ・「よむリス」は学校で全児童に配布しているが、「知らない」児童も 13.0%いる。
- ・「よむリス」に読んでみたい本が全くなかった児童が 9.4%おり、また、「おもしろい・感動した本がなかった」「読んでいない」児童も一定数いるため、その児童への働きかけの検討が必要である。

[質疑・意見聴取]

○会 長 今の事務局の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 A 一番下がこの 4 月に 1 年生になる年長、次が小学 3 年生、一番上が小学 5 年生と 3 人の子どもがいるが、年齢が上がるにつれて読書の時間が減っているように感じている。学校で「よむリス」をもらうが、配られた際に「これは知っている。」「これはおもしろかった

よ。」と友達から言われると、「読んでみようかな」となる。また、「この本は〇〇さん、この本は□□さん」というように友達同士で読む本の担当を決めて、読んだ本の情報交換を行っている。

幼稚園で先生がよく本を読んでくれているため、年長のこどもの方が本に興味があるのかなと感じる。小学校低学年の頃は先生が本を読んでくれていたが、学年が上がるにつれて読みきかせの機会が減っている。

○委員B 「飯田市児童・生徒読書調査結果報告書」で「読みたい本がない」、「読む本がわからない」という児童・生徒が一定数いる。「よむリス」があるので、その中におもしろい本があるのではないかなと思うが、実際に読んで面白いかな、面白くないかなと言うのではなく、本を読んでいないための回答だと思う。せっかく「よむリス」などのいい資料があるので、そうしたものを活用できるようにしていくといいのではないかな。

○委員C 「飯田市児童・生徒読書調査」の結果にショックを受けている。「よむリス」の活用法は難しいと感じる。読みきかせで日本の昔話を読んだ際に世界の昔話を紹介して、「こういう本も出ているので、図書館で借りて読んでみて。読んでみると楽しいよ。」と伝えてはいるが、大人の自分でも「よむリス」の中に読んでいない本もある。自分で読んでいないと紹介もできないため、1年生の「よむリス」の中でしっかり読んでいなかった本から読んでいる。1・2・3年生の「よむリス」を重点的に自分で読み進めながら、どうしたらこの本をこどもたちに手渡していけるのかということを考えている。

「読みたい本がない」というこどもたちは、題名を見て好きか嫌いかで判断していると思われる。本を手渡していく部分を周りの大人、担任の先生や学校図書館司書の先生がどのようにフォローしていけるかが課題。先生たち自身が本を読んで、「この本はここが面白いんだよ。」と伝えていけると、こどもも読んでみようかなと思うようになるのではないかな。

小学校に読みきかせに行くと、小学1・2年生が自分で本を読んでいる光景を見かけるが、この学年のこどもたちには、ぜひ先生方が本を読んであげてほしい。字を読むことはできるが、どこまで本の内容を理解しているかということには個人差がある。保育園の年長でも字を読んで、内容を理解しているこどももいるが、1年生で字を習っても字を読むだけになっているこどももいる。小学校に入って数カ月で字をすらすら読んで物語の内容まで理解できるようになることはとても難しいことだと思っている。先生方も忙しいとは思いますが、2年生ぐらいまでは朝読書に読み聞かせをしてもらいたい。朝読書の時間は自分で本を読む時間ではなく、先生と一緒に本を楽しむ時間という捉え方をしてもらえれば、こどもたちももっと本と親しめるようになるのではと思う。

○委員D 私が本を読み始めたきっかけは中学生時代に友達に紹介されたことだった。そのため、読書調査の読む本の選び方で「友達からの情報」が多いことには納得できる。自分がこどもの頃は自分で本を探したいという思いがあったため、先生から「この本を読みましょう」

と紹介されても読んではいなかった。上手に「よむリス」の本を手渡していけばいいと思うが、大人の押し付けにならないようにしたい。

「第5次飯田市立図書館サービス計画（案）」の変更点で、具体的な取組の「Ⅰ 図書・資料・情報提供を充実させます」の中に、「本を読むことの意義を伝える」という言葉が付け加えられたと説明があった。私はここに違和感を覚えた。「本を読むことの意義」とはどういうことか、それをどう伝えるのか。「意義」はその前に書かれており、具体的にどうするのかと考えたときに、説教のようにならないでほしいと感じた。

新規の事業に加えて、やりたいことや必要とされていることが多岐にわたり書かれている。「何をするか」について読むだけでも時間がかかる。取組を進めていく職員の方の負担も大きいのではないかと心配する。重点事業を決めて取り組んでいってはどうか。

○委員 E 小学校では、朝読書には地域の読み聞かせボランティアの方が読み聞かせをしてくれている。先生が読むというご意見をいただき、短い時間で少しずつ読むということもいいと思うが、なかなか時間が取れない現状もある。こどもたちも本が好きで読むこどもとそうでないこどもとに、二極化してきている。担任の先生と、「第5次飯田市立図書館サービス計画（案）」の中にある図書館の「バックヤード見学」ができるとこどもたちも本に興味を持つのかなとも話しており、来年度にお願いしたい。

○委員 F 「飯田市児童・生徒読書調査結果報告書」を見たが、調査結果が思ったより良い。中学生も忙しいが、本に触れていると知ることができた。中学生の場合、本を読むのは寝る前の時間だと思われ、枕元に本を何冊か置いておいて、「今日はこの本を読もう」と読んで、そのうち寝てしまうという生活をしている生徒が多いのではないかなと思う。友達同士の紹介も日ごろから図書委員が工夫して行っており、引き続き、横のつながりを大事にしながら続けていきたい。

来年度から学園構想が始まるため、小中の連携、中学生が小学生へ読み聞かせを行う、中学生が小学生に本を紹介するといった取組も今後できるようになるのではないかな。小中の連携もとりながら、学園構想の中で進めていければと考えている。

○委員 G 「飯田市児童・生徒読書調査」の結果を見て千種委員と同じように、思ったよりこどもたちは本を読んでいるという感想を持った。学年が上がってスマホを手に入ると本から離れてしまい、家庭でもお父さんやお母さんは本を必要としないような中で、本に触れないこどもたちもいるのではないかなとも思っていたが、こどもたちが本に親しんでいることが分かった。これは、こどもたちに接する現場の先生方や図書館が頑張っている結果だと思うので、今後にも期待したい。

以前こどもが図書館で騒ぐことが心配だという保護者の方の声があると聞いたが、最近、自宅近くの分館を利用した。こじんまりとした分館ではあったが、絵本やこども向けの本が充実しており、こういう場所に親子で来てこどもに自由に本を選ばせて、本が身近にある経験をしてほしいと思った。分館は毎日開いていないことが残念であるが、今後もこど

もが本に接する機会が減らないように、図書館や学校現場の先生方に期待したい。

(2) 令和6年度事業報告および令和7年度事業計画

- 会 長 続きまして会議事項2、令和6年度の事業報告および令和7年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 「飯田市立図書館サービス計画に基づいた令和6年度の事業報告及び令和7年度 of 取組」により説明。

I. 図書・資料・情報提供を充実させます

令和6年度の取組、成果および課題

- ・利用者のリクエストを最優先し、利用状況や分野のバランスを取りながら図書を購入した。特徴的な本としては仕事のスキルアップや起業・資格、医療・介護、源氏物語や平安時代の関連本などを購入し、利用された。
- ・貸出利用者数は1月末時点で昨年度並みであるが、より多くの方に利用していただく方策が必要である。
- ・国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に郷土のレファレンスを蓄積し、現在114件の事例が蓄積できた。類似レファレンスに活用していく。
- ・多様な分野の事典類を一括検索できるデータベース「ジャパンナレッジ」を導入し、使い方や事典類を紹介する「図書館を使った情報の探し方講座」を行った。普段は手に取られない事典類を知っていただくことができた。
- ・ビジネス支援では、「好き」を仕事にしている方から起業の実際についてお話を伺うトークイベントを行い、図書館を利用していなかった方の参加もあった。

令和7年度の主な取組

- ・多様なニーズに応えるため、利用者との対話からニーズを引き出し、ニーズと蔵書構成とのバランスを考慮しながら図書を購入して提供する。
- ・誰もが気軽に来館できる場所になるための機会づくりの検討を進める。
- ・情報探索支援やレファレンス（調査相談）による速やかな情報提供と本を探しやすい書棚づくりに取り組む。

II. 子どもの読書活動を推進します

「こどもたちが、読書の楽しさを体験し、知ること学ぶことの喜びを知り、自分で考える力、課題を解決する力を培うことができる」ことを目標に、関係機関と連携して、発達段階に応じて継続的に読書活動の推進を行っている。

令和6年度の取組、成果および課題

【乳幼児（就学前）】

- ・家庭での読書の充実を重点として、保健課や市内保育所と連携して取組を進めた。

- ・はじめまして絵本についてのアンケートや令和5年度の図書館アンケートの意見を踏まえ、7か月児への「はじめまして絵本」プレゼントでプレゼントする絵本について、選べる本の選択肢を増やす方向での見直しを行った。
- ・絵本の楽しさを体験する機会を増やすため、保育所等を通じて各家庭へ定期的に本が届く仕組み作りに取り組んだ。おともだち絵本事業の実施と併せて団体貸出利用の呼びかけを行い、33園へ団体貸出を実施、31園で家庭への絵本持ち帰りが行われている。

【小学生・中学生】

- ・学校図書館と協力して作成した学年別の図書リスト「よむリス」を小学生へ配布し、連携した活用を進めた。
- ・上郷図書館職員の小中学校図書館支援担当や分館担当を中心に、学校図書館のコンピュータシステム導入の支援や、学校図書館訪問(小学校)を通しての実態把握を行った。
- ・小学校への団体貸出も進め、こどもたちが本と出会う機会を増やす取組を行った。

【高校生】

- ・駅前図書館で本に親しむイベントを5回実施。高校生が自ら参加する姿も見られた。マンガ教室では、マンガ家志望の高校生が講師に熱心に質問する姿があった。

【こども読書推進事業】

- ・子どもの本研究会と共催で「よむとす*こども読書『読書っていいな Project』」を年3回開催。こどもの読書について考えるグループワークを行い、読書推進について考える機会になった。
- ・児童書作家の杉山亮氏を講師にこども読書推進講演会を行い、こどもとこどもに関わる人におはなしの楽しさを伝える機会を提供した。

【こどもの読書活動に関わる人への支援】

- ・東京子ども図書館から講師をお招きし、読みきかせボランティアの会研修会を実施した。

令和7年度の主な取組

【乳幼児（就学前）】 【小学生・中学生】 【高校生】 【こどもの読書活動に関わる人への支援】

- ・これまで進めてきた取組を継続して行う。

【こども読書活動推進事業】

- ・飯田市全体でこどもの読書活動推進への取組を進めるために、関係機関と連携した協働の体制づくりを進める。

Ⅲ. 身近に使える図書館の充実を図ります

令和6年度の取組、成果および課題

- ・分館では、地区の特色に沿った本や学校・保育所・公民館行事に沿った図書を購入した。
- ・公民館や育成会等と共催でおたのしみ会等の事業を開催したほか、小学校と連携して読書ビンゴやスタンプラリーを行うなどの読書推進事業を実施した。
- ・分館と保育所との連携を推進するために、おともだち絵本のプレゼントに分館職員が参加することで、こどもたちに分館職員と親しんでもらうことができた。

- ・分館によって、保育所や小学校との連携に差があるため、園や学校の状況に応じて取り組みを進める必要がある。

令和7年度の主な取組

- ・来館者とのコミュニケーションを大事にし、誰でも立ち寄って気軽に話せる居場所であることを目指す。
- ・引き続き、地区の特色に沿った本や学校・保育所・公民館行事に沿った図書を購入する。
- ・公民館・保育所・小学校との連携に力を入れて読書推進を行う。特に学校司書との情報共有を重点に取り組む。
- ・業務マニュアルを現状にあったものへ整備を進める。
- ・コンピュータシステム導入についての検討を行う。

IV. 学びあいにより人と人とがつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

令和6年度の取組、成果および課題

- ・令和7年の中央図書館開館110周年記念事業のため、4月から「図書館カフェ」を毎月行い、市民の方と一緒に企画内容を検討してきた。8月には事業の企画運営を行う市民団体「いい図書110もりあげ隊」が立ち上がり、企画検討を積み重ね事業内容を決めることができた。
- ・県図書館と県公民館が共催で、大人と中学生が郷土資料を使って一緒に地域を調べる「県ナゾとき探偵団」を行った。調査結果のまとめは、地区文化祭をはじめ県図書館、県中学校へ巡回展示を行った。世代間交流と、地域資源に注目するきっかけをつくることができた。
- ・文学講座「源氏物語に親しむ」を9月に開催した。大河ドラマの効果もあり多くの参加者があり、作者である紫式部や作品の時代背景等について、日本を代表する古典文学の世界にふれることができた。
- ・2月に有吉佐和子のロングセラー『青い壺』の読書会を実行委員と行う。
- ・主体的に参加できる内容の企画実施や、運営を担える場や人材をつくっていくことが課題である。

令和7年度の主な取組

- ・中央図書館開館110周年記念事業「図書館のあゆみ展」、「図書館の明日を語る会」、「PR動画制作・上映会」、「としょかんマルシェ（ミニ企画を集めた催し）」を市民のみなさんと一緒に行い、学び合いと新たな交流の場をつくる。
- ・「江戸の出版文化」をテーマに文学講座を開催する。
- ・県図書館と県公民館が共催で「県ナゾとき探偵団」に引き続き取り組む。

V. 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します

令和6年度の取組、成果および課題

- ・郷土資料を使い地名を自分で調べる講座を伊那谷地名研究会のみなさんと一緒に行い、地名に興味を持った方と伊那谷地名研究会をつなぐ機会提供ができた。

- ・美術博物館の企画展示や歴史研究所の研究集会、公民館の講座に合わせ、関連資料の展示や図書リストの提供を行った。市民の方の興味・関心に合わせた提供ができた。
- ・三穂地区旧小笠原家書院築 400 周年にあたり、中央図書館と三穂分館でテーマ展示を行うほか、伊那谷地名講座で講演会を行ったり、地区主催の WikipediaTown（現地を歩き、地域の情報を本で調べて Wikipedia に書き込むイベント）に協力したりして、広く関連の郷土資料を紹介することができた。
- ・飯田文書のマイクロフィルムと郷土カセットテープ音源のデジタル化を行い、保存・提供しやすいようにした。
- ・郷土資料を活用して学ぶ方が減少しているため、郷土情報の紹介や発信は引き続き必要である。

令和 7 年度の主な取組

- ・伊那谷地名研究会と共に、参加者が主体的に学べる講座を企画する。
- ・教育委員会の関係機関と連携した郷土資料の紹介展示、図書リストの提供を行う。
- ・郷土新聞のデジタル化を進める。

VI. 安全で安心して使える施設を整えます

令和 6 年度の取組、成果および課題

修繕・改修工事を行い、市民が安全・安心に利用できる施設環境の維持に努めた。

- ・実施した主な工事は、中央図書館屋根及び西側外壁（一部）改修工事・中央図書館空調設備更新工事（1 系統及び書庫）・中央図書館照明 LED 化工事・中央図書館遮熱ロールスクリーン設置工事・伊賀良学習交流センター照明 LED 化工事。

令和 7 年度の主な取組

安全・安心に利用でき、環境に配慮した施設環境を整えるために、点検や改修工事を実施する。

- ・実施予定の主な工事は、上郷図書館照明 LED 化工事など。

[質疑・意見聴取]

○会 長 今の事務局の説明を受けて、ご質問ご意見等、お寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員 B 「Ⅱ. 子どもの読書活動を推進します」の今年度の取組にある公民館と連携した家庭読書推進の講座とはどういうものか。

○事務局 山本公民館・上郷公民館の連続親子講座の 1 回を図書館からの読書推進の講座として、図書館職員が出かけていき、読みきかせや本の紹介などを行った。土日での開催ということで父親の参加も多く、親子で本を楽しむ講座となった。また、この講座をきっかけに図書館の貸出カードの登録や利用にもつながっている。

○委員 G 分館は各地区によって規模や取組内容が違うが、開館時間は地区ごとに決めているのか。
○事務局 基本の開館は水曜日の 13 時から 17 時、土曜日の 10 時から 17 時である。遠山地区の上村分館と南信濃分館は合併前の児童館的機能を引き継いでおり、月曜日から金曜日の 15 時から 17 時の開館となっている。比較的人口規模が大きく施設が充実している松尾・竜丘・山本・伊賀良地区の分館は、日曜日の 13 時から 17 時も開館している。特に伊賀良分館は、平成 18 年度に公民館の一室を利用するのではなく、「伊賀良学習交流センター」という単独館として開館したため、火曜日の 13 時から 17 時、木曜日の 10 時から 17 時も開館しており、開館日数や時間が多くなっている。

また、「分館によって保育所や小学校との連携に差がある」としてあるのは、分館と保育所や小学校との立地関係によるものである。公民館と保育園・小学校の距離が近い分館では連携しやすい状況があるが、16 分館で一律に同じにはいかない実情がある。

○委員 G 児童館や児童クラブに分館規模の本があると、児童館や児童クラブで過ごす子どもたちにとって、豊かな読書体験となるのではないかと感じていた。

○事務局 児童館や児童クラブが水曜日に分館へ来館している地区もある。

○会 長 こどもの読書推進以外の高齢者や大人の読書についてはいかがですか。

○委員 G 調べものがインターネットなどを使って自分でできるため、図書館は必要ないという声はないか。

○事務局 インターネットで調べたい情報が入手できたり、自治体等でも情報のオープンデータ化ということで公開する方向になってきたりしているため、自分で調べることができる方は情報を自分で得やすくなっている。ただ、インターネット上には様々な情報があるため、「こういう情報が知りたいときにはこのサイトがいいですよ」といった案内も図書館の大事な仕事だと考える。

○委員 G 駅前図書館で高校生がインターネットで調べものをする力をつけているのか。

○事務局 高校生の中にはインターネット情報だけで探究学習の資料などを作る生徒もいる一方で、図書館に来館して資料を調べる生徒もいる。本で調べるということは高校生になるまでに本に親しんでいたりと、本で調べたりする経験がないと難しい部分もあるため、図書館としても小学生の頃から本に親しんだり本で調べたりすることを大事にしたい。

○委員 D 計画で取り組む内容が多いので大変ではないかと心配する。

○委員 G 来年度は中央図書館開館 110 周年の事業もある。

○事務局 来年度は通常の業務に加えて、中央図書館開館 110 周年記念事業がある。事業内容は増えるが、せっかくの 110 周年であるため、これを契機に多くの方に図書館を利用してもらえようになりたいと考えている。また、自ら進んで図書館に関わって活動したり、読書活動を行ったりする方が増えるきっかけにもしていきたいと思い、企画を考えているところである。

○委員 G 110 周年記念事業に学生ボランティアを募るというのはどうか。

- 事務局 学生ボランティアにも一緒に活動していただければ嬉しい。
- 委員F 地区の公民館主事が中学生ボランティア登録システムを作成してくれた。ボランティアを募集している活動の一覧を中学校で配布し、生徒自身がこれなら自分ができるという活動にボランティア登録をするもの。今のところ 150 人ほどの生徒がボランティアに参加した。地区の運動会の企画・運営にはかなりの数の生徒が登録し、大人と一緒に競技を考えたり、当日に運営したりした。図書館の 110 周年記念事業もその一覧の中で中学生ボランティアを募集してもらえると、本の好きな生徒は参加したいだろうし、中学生自身が読書推進活動を考えるいい機会になると思われる。中学生は地域のことに関わりたいと思っているため、地区の公民館主事と連絡を取り合って、ぜひ中学生ボランティアを募集していただきたい。
- 事務局 今年度の松尾分館の夏の工作教室のときに、中学生ボランティアが参加してくれたと聞いている。
- 委員G どんな作業でも、中学生にとっては楽しいものになるのではないかな。私もこどもの頃に本の修理を教えてもらって、本のつくりが分かって嬉しかった記憶がある。中学生はボランティア活動に参加したいと思う。
- 会 長 『青い壺』読書会」は、読書会の皆さんと連携して行うのか。
- 事務局 昨年まで飯田・下伊那読書会交流会ということで、各読書会の皆さんが集まって自分たちが行っている活動について情報交換を行っていたが、各読書会の皆さんが読書会交流会の企画・運営を担うことが難しくなってきた。飯田・下伊那の読書会の文化を継承していくために、まずは読書会に興味をもってもらい参加してもらえるようにと、昨年度から読書会を体験してもらおう機会として開催し、昨年度はサンテグジュペリの『人間の土地』を取り上げ、今年度は有吉佐和子の『青い壺』を取り上げる。この本は約 50 年前に出版された本だが、作家・原田ひ香が紹介したことでブームになり、NHKの番組で取り上げられたことで更に話題となっている本である。2 月 23 日 13 時 30 分から中央図書館で行う予定で、『青い壺』を読んでいなくても参加できる読書会のため、ぜひご参加いただきたい。
- 事務局 これまで行っていた読書会交流会の参加者の中からも有志の方が運営に携わっていただいております、一緒に内容等を検討してもらっている。

(3) その他

- 会 長 それでは、その他について説明をお願いします。
- 事務局 「ビジネス・ライブラリアンに聞く！地域に役立つ図書館になる秘訣」チラシを説明

- ・ビジネス・ライブラリアンに聞く！地域に役立つ図書館になる秘訣（3 月 8 日）
ビジネス支援の取組について、ビジネス支援図書館推進協議会と共催で行う研修会。
図書館職員を対象とはしているが、一般の方の参加も可能。

○会 長 他に委員の皆さんからいかがでしょうか。

○委員C たしか10年ほど前だったと思うが、広報いいで図書館を取り上げてもらったことがあり、それが好評であった。今はその時とサービス内容が違っているものもあり、中央図書館110周年を迎えるため、もう一度広報いいで取り上げてもらってはどうか。

○事務局 図書館で行っているサービスを知らない人もいるため、図書館を知ってもらうための動画を110周年記念事業の中で飯田コアカレッジの皆さんと作成をしようと企画している。広報いいで動画も作成してくれたこともあるが、今回は5分程度の短い動画を図書館利用者向け、図書館を利用していない人向け、こども向けに作成しようと考えている。

○委員C 動画だけに頼るのではなく、動画を見られない人たちへの発信も必要である。紙で訴えるものとして、広報いいでの特集も検討してほしい。

○事務局 来年度の中央図書館開館110周年に合わせて広報いいでも特集してもらうように予定している。

○会 長 長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございました。それでは、これで協議を閉じます。